

令和5年度PDCAサイクルに沿った取組の推進に資する研修

通いの場等のPDCA:課題解決のための戦略策定(ロジックモデル)

東京都健康長寿医療センター研究所
東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター
研究員 倉岡正高
mkuraoka@tmig.or.jp

問題と課題の違い

地域アセスメント上で課題を設定する際には、根拠となる問題と課題についての関係性を理解することが重要！

「孤立死が増えている」

あるべき姿

0人



この差が「問題」

現状

10人

「課題とは」

現状とあるべき姿の差（問題）を
埋めるために取り組むべきこと

孤立死が増えているという問題に対して、
考えられる課題はいくつかある。

- ・ 一人暮らしの見守り体制が出来ていない
- ・ 一人暮らしの人が気軽に通える場がない
- ・ 専門機関の連携が出来ていない
- ・ その他

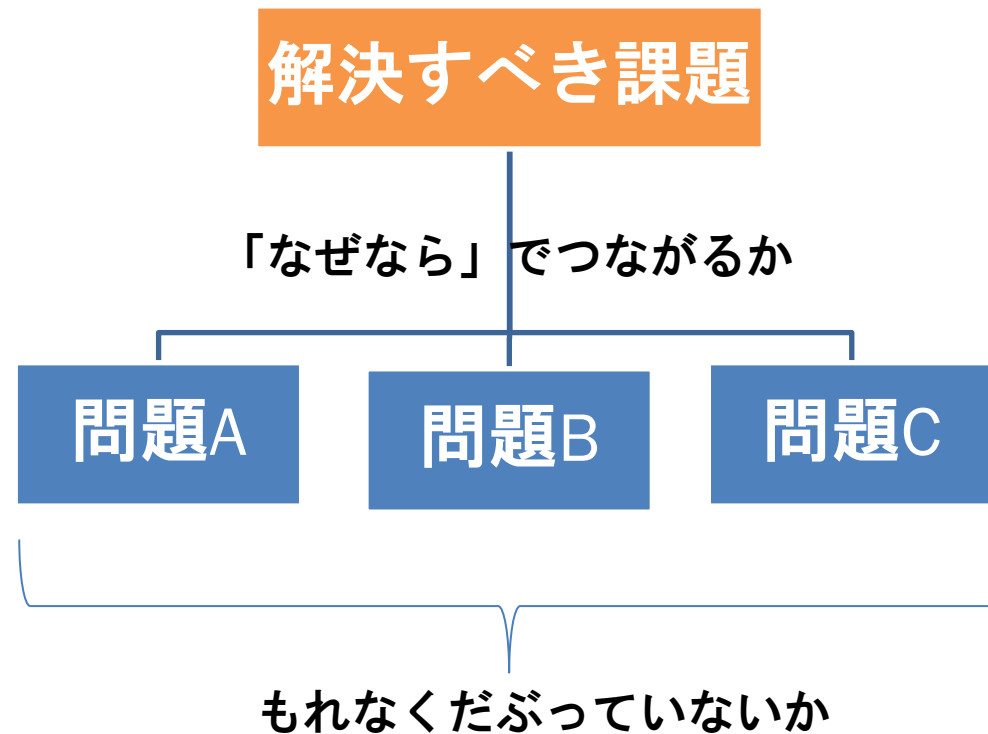
ロジカルシンキング：縦の論理と横の論理

課題を設定する際には、その課題について縦の論理と横の論理で確認する！

何かを説明する時に、相手の疑問は大きく2つに分かれる。

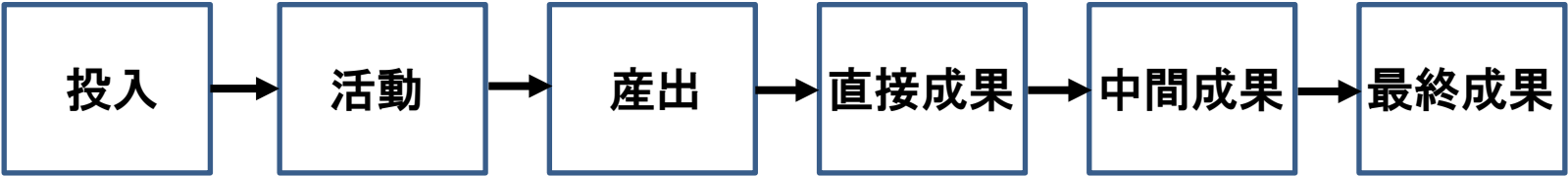
本当にそうなのか？ ▶ **縦の論理**

本当にそれだけなのか？ ▶ **横の論理**

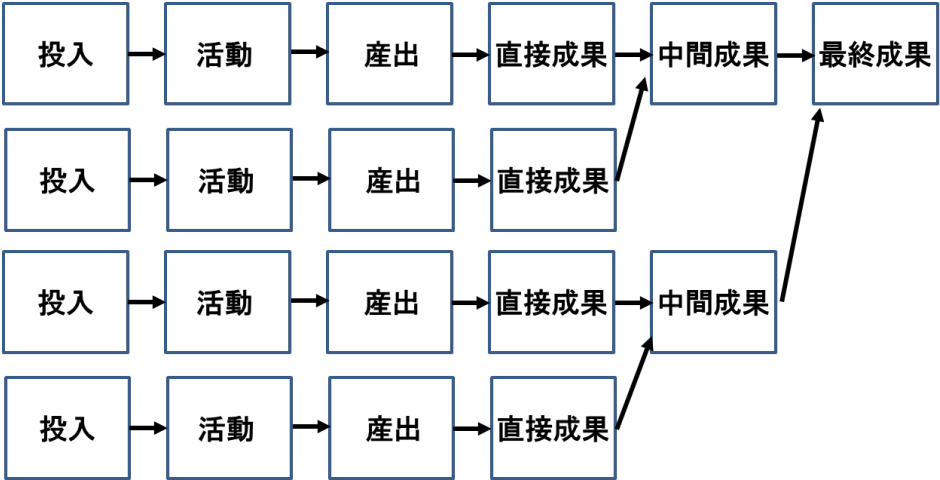


ロジックモデルの様々な形式の例

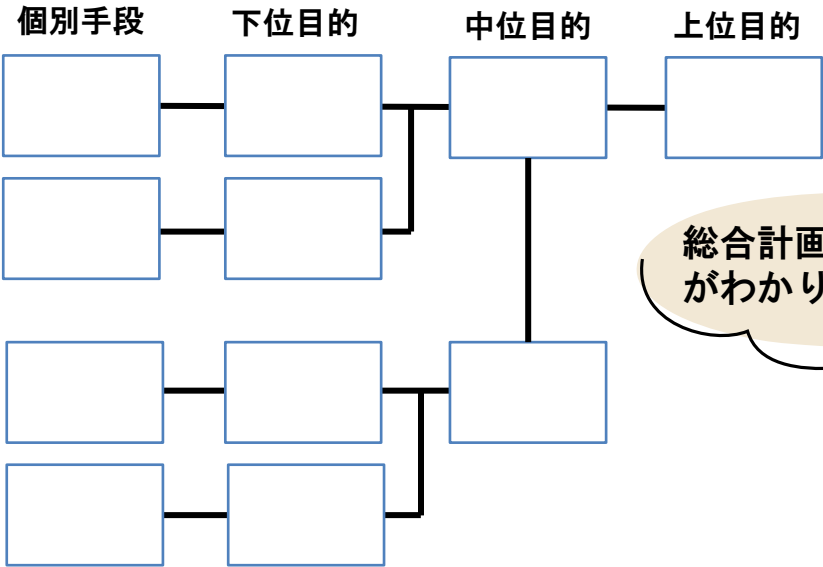
事業のロジックモデル（単線フローチャート型）



施策のロジックモデル（複線フローチャート型）



施策のロジックモデル（体系図型）



総合計画ではこの形式
がわかりやすいかも



参照：エビデンスに基づく自治体政策入門ロジックモデルの作り方・活かし方（佐藤徹、2021）

目的の階層化

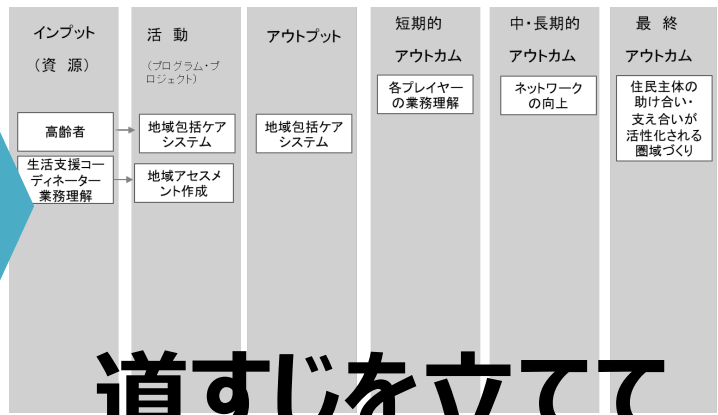
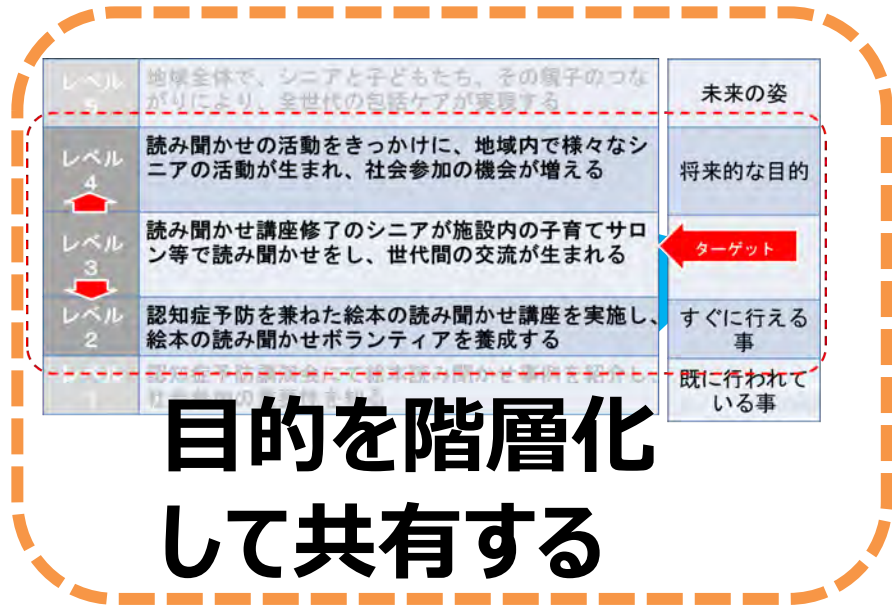
PROCESS

なぜをシステマティックに考える

地域アセスメント・目的の階層化・ロジックモデルの関係性

データ		アセスメント			目指すべき展開
客観的データ	主観的印象	強み (活用/強化ポイント)	弱み (課題/改善ポイント)	補足 (強み/弱みの根拠等)	
住民特性 ・高齢者率28.5%。 (ケア24管轄地域全体では23.4%) ・数地の大きい一軒家が多い。 生活 ・利用可能な公共交通機関が少ない。 住民組織活動・社会参加活動 ・町会への加入率は比較的高い。 医療福祉サービス ・大きな病院は遠く、診療所が点在。 ・たすけあいネット、たすけあいサポート、たすけあいサービス	・数年前と比べると一人暮らしの高齢者が増加している印象。 ・裕福で比較的学歴のある人が多い印象。 ・高齢者の移動手段は多くが自転車。その割に道幅が狭く、車通りが多いところが多い。 ・町会の活動も活発。 ・町会は、ケア24と積極的に連携してくれようとしてくれる。 ・行動力がある。地域の様となり得る方が多い。 ・たすけあいネットワークへの登録が多い印象。 ・共助の意識が高い。	・住民の社会経済状況が高いため、ケア24の活動の意義などを理解してもらいやすい。 ・一軒家が多く訪問が難しい(入れてもらえない) ・一人暮らし高齢者の増加。 ・ケア24として遠居高齢者の情報(台帳)整理が不十分ではないか。 ・高齢者の交通安全への意識はどのようになっているのかは不明。 ・町会に入っていない人は不利益を待てないかについてはあまり考えてこれなかった。	・一軒暮らし高齢者の見守り活動。町会と協働で行うことができるのではないか。 ・まずはその必要性について町会をはじめとする組織と話し合う機会を設けてみる。 <活用可能な社会資源> 警察、他のケア24	・交通の観点から、警察と組んだ講座が必要かもしれない。他のケア24の同じような講座の実施状況について情報収集する。 <活用可能な社会資源> 警察、他のケア24	・交通の観点から、警察と組んだ講座が必要かもしれない。他のケア24の同じような講座の実施状況について情報収集する。 <活用可能な社会資源> 警察、他のケア24

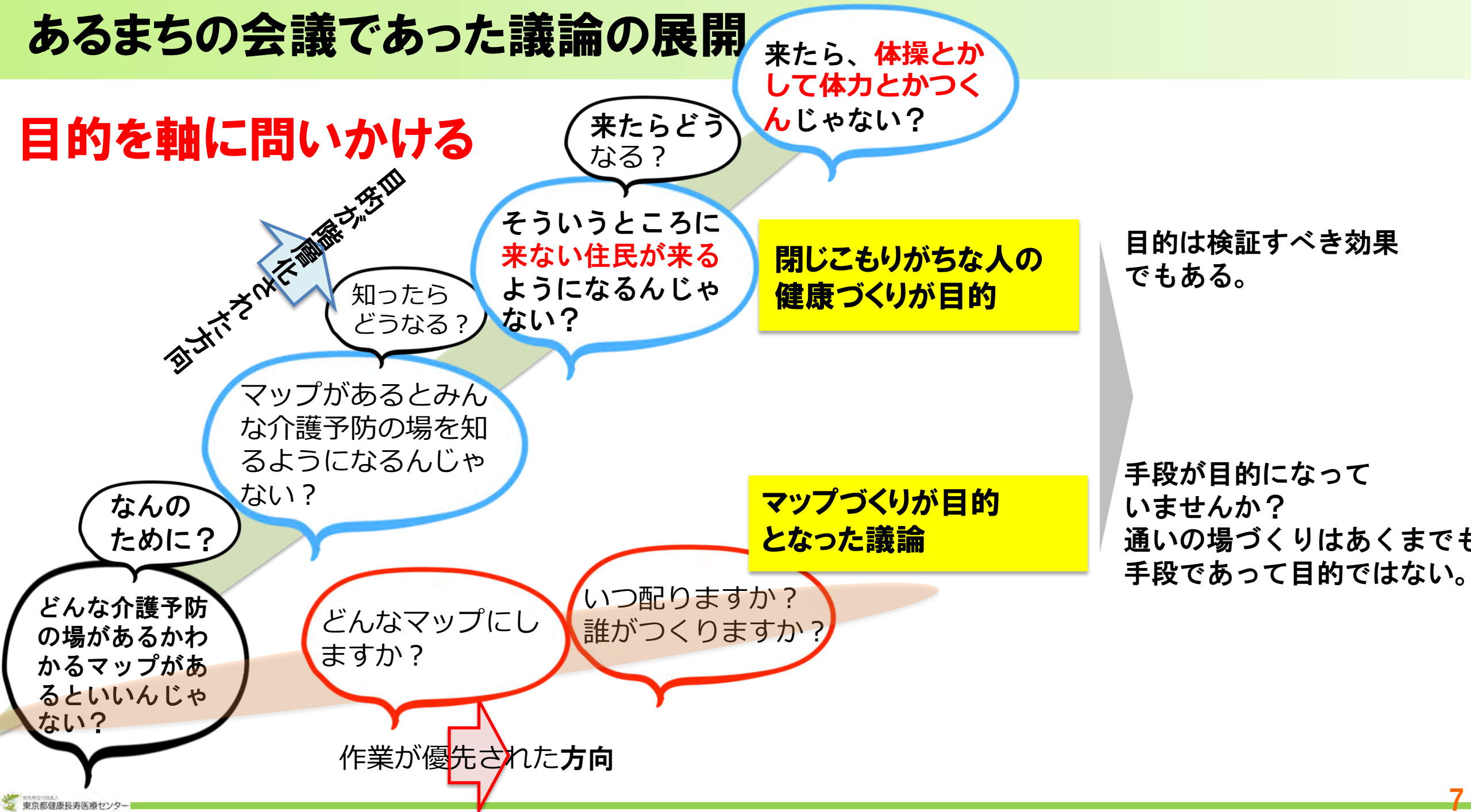
情報を収集・整理して可視化する



- 地域アセスメントで抽出した課題解決のための取組と目的を考える。
- 取組と目的を階層化することによって明確にする。

あるまちの会議であった議論の展開

目的を軸に問いかける



目的の階層化:未来から今を考える(Back Cast バックキャスト)

未来の姿

将来的な目的(3年～5年)

主たる目的(1～3年)

すぐに行える事(6か月)

既に行われている事



地域アセスメント

計画づくりにおいては、現状の延長線上

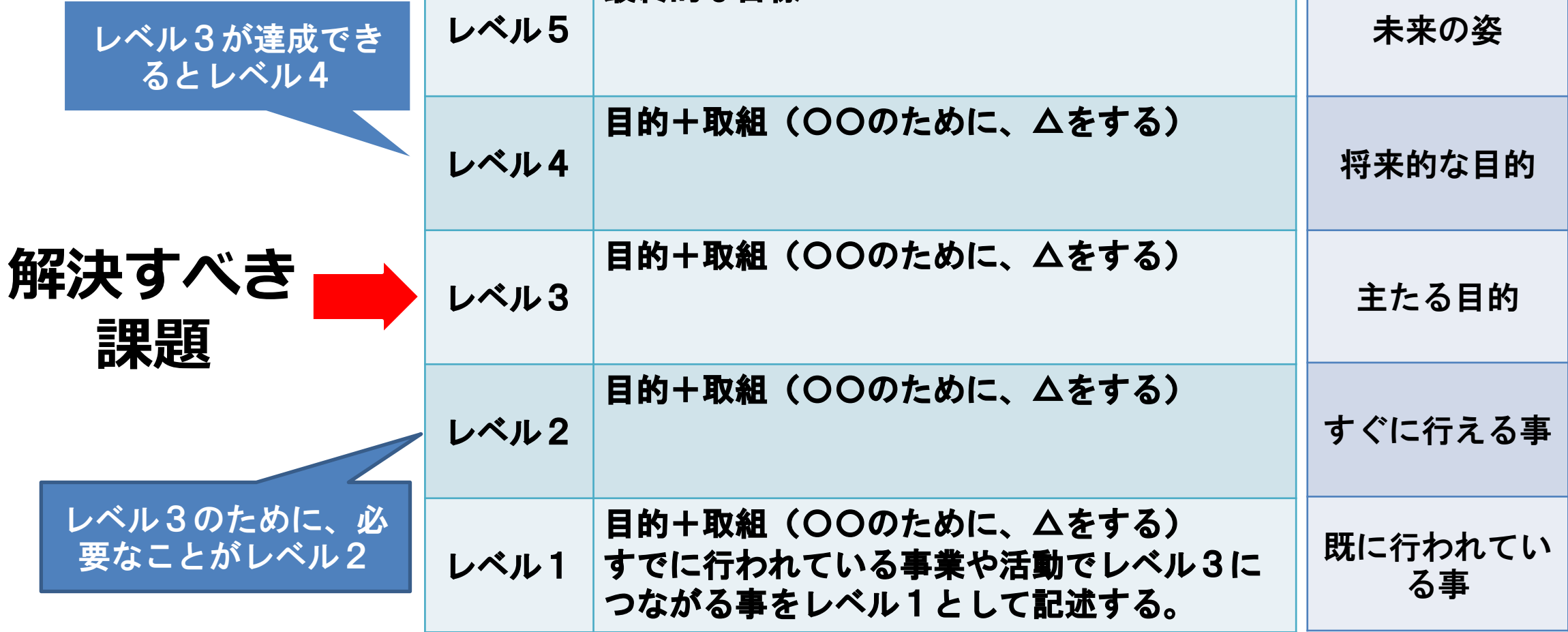
だけで考えるのではなく、

こうきたい未来の姿から、

今やるべきことを考えることも重要。

目的を階層化する作業

設定された課題を解決するための取組とその目的をレベル3として、上下の目的を考える！



Gaynor & Evanson, 1992を参照し作成

目的の階層化：現場レベルの目的の階層化（通いの場の例）

レベル5	男性高齢者がいきいきと活躍し、男性を中心にした困りごとの助け合いネットワークが広がる。	未来の姿
レベル4	地域の男性の社会的孤立化が進まないようにするため、通いの場の男性スタッフによる困りごとの支援をする。	将来的な目的
レベル3	男性高齢者のフレイル予防のため、男性スタッフが主体的に運営する通いの場をつくる。	主たる目的
レベル2	男性高齢者の通いの場の必要性に対する意識を高めるため、男性の孤立やフレイル予防の必要性を考えるイベントを開催する。	すぐに行える事
レベル1	フレイル予防について意識の高いサポーターが、地域で活動している。	既に行われている事

「通いの場をつくる」は目的ではなく手段、通いの場を作って何を変えようとするのが目的

目的の階層化のメリット

メリット①

「結局わたしたち、なにすればいいの？」



関わる人たちがやるべき事、何のためにやるのかを理解しやすくします。



それぞれの住民が思い描いているものは必ずしも見えない。だからわかりやすく見せて確認する。

メリット②

「えー、ですので、いろんな人が・・・なんとなく助け合っているというような、そんなまちってどうですか？」

ちょっと何言っているのかわからない。

説明する人が説明しやすくなります。



👉 伝えるのが得意か不得意の問題ではなく、伝える技術で解決する。

メリット③

「前何するって話したっけ？」「私、休んだかも・・・」

定期的にふりかえる基準となります。



議論や作業の大事なポイントに立ち返る指針となります。

メリット④

「結局、あれやって
なんか良くなった
の？」

評価すべきことがわかりや
すくなります。



➡ 目的が明確であれば、評価すべき対
象、とらえるべき変化(アウトカム)は何
かがわかる。

メリット⑤

「去年は世代間交流が大事っていろいろやりましたが、今年も同じでいいですか？」



目的を達成した後のあらたな目的に移行しやすくなります。

レベル3へ！



👉 上位レベルを見据えて目的を設定したので、達成後は決められた目的と取組に着手するだけ。

メリット⑥

「どうせだからこれもやっていいですか？」

「どうぞどうぞよろしくお願いします」



「やる事」と同時に「やらない事」も明確にします。



目的と取組の合意は、つまり合意していない他の余計なことはしないということです。さらに、やらないでいいですよと客観的に言いやすくなる。

メリット⑦

「これって私もやんなきゃいけないの
(心の声)？」

やりたい人をやる気にさせます。
同時に、やりたくない人はやっぱりやりたくないことがわかりやすくなります。



❖ 必ずしも関わらなくてもいいということがわかることも大事。
やりたいと思えることをやってもらう。

目的の階層化の注意点

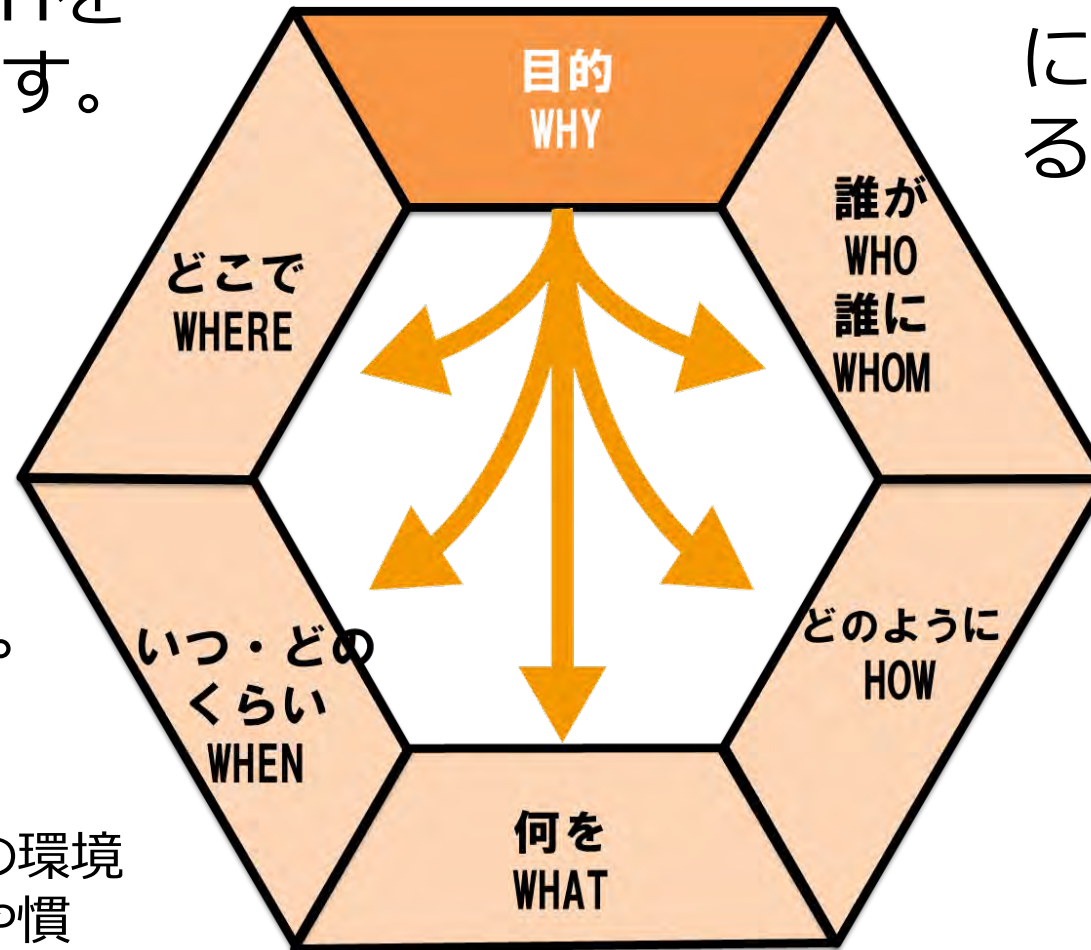
目的の階層化をする際には以下の点に注意して作成してください。

1. **目的の前後関係（レベルの上下）があるか**
 - レベル2とレベル4を合わせて見ながらレベル3を考えてみる。
 - どの順序がもっともその課題を解決しやすいか（啓発→単発イベント→居場所→助け合いなど）を考えてみる。
2. **レベルの間が飛躍していないか。**
3. **レベルの間が近すぎないか（重要で目指すべき事がレベルの内容に書かれていないか）。**
4. **一つの文に目的が複数ないか。接続詞でいくつもつなげない！**
5. **一つの文に取組が複数ないか。接続詞でいくつもつなげない！**
6. **取組（手段）が目的になっていないか。**

目的に合わせた取組の考え方

▶ 取組を考える上で、目的に合わせて、6W1Hを考える必要があります。

▶ 目的は計画上のみではなく、活動現場の実践において常に意識されるべきものです。



計画



会議



広報



通いの場やイベント

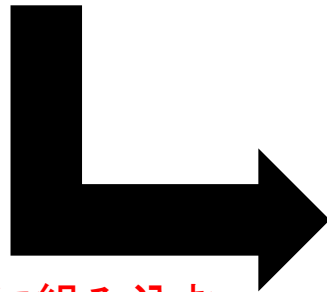
▶ 取組を考える上で、地域の強みを活かす。

- 人や団体の資源
- 住民の意識
- 場所・施設・地域の環境
- 状態（人の関係性や慣習・文化）

地域アセスメントにある「**強み**」を意識して取組を考える

地域アセスメントでは、例えばこのような強みが挙げられます。

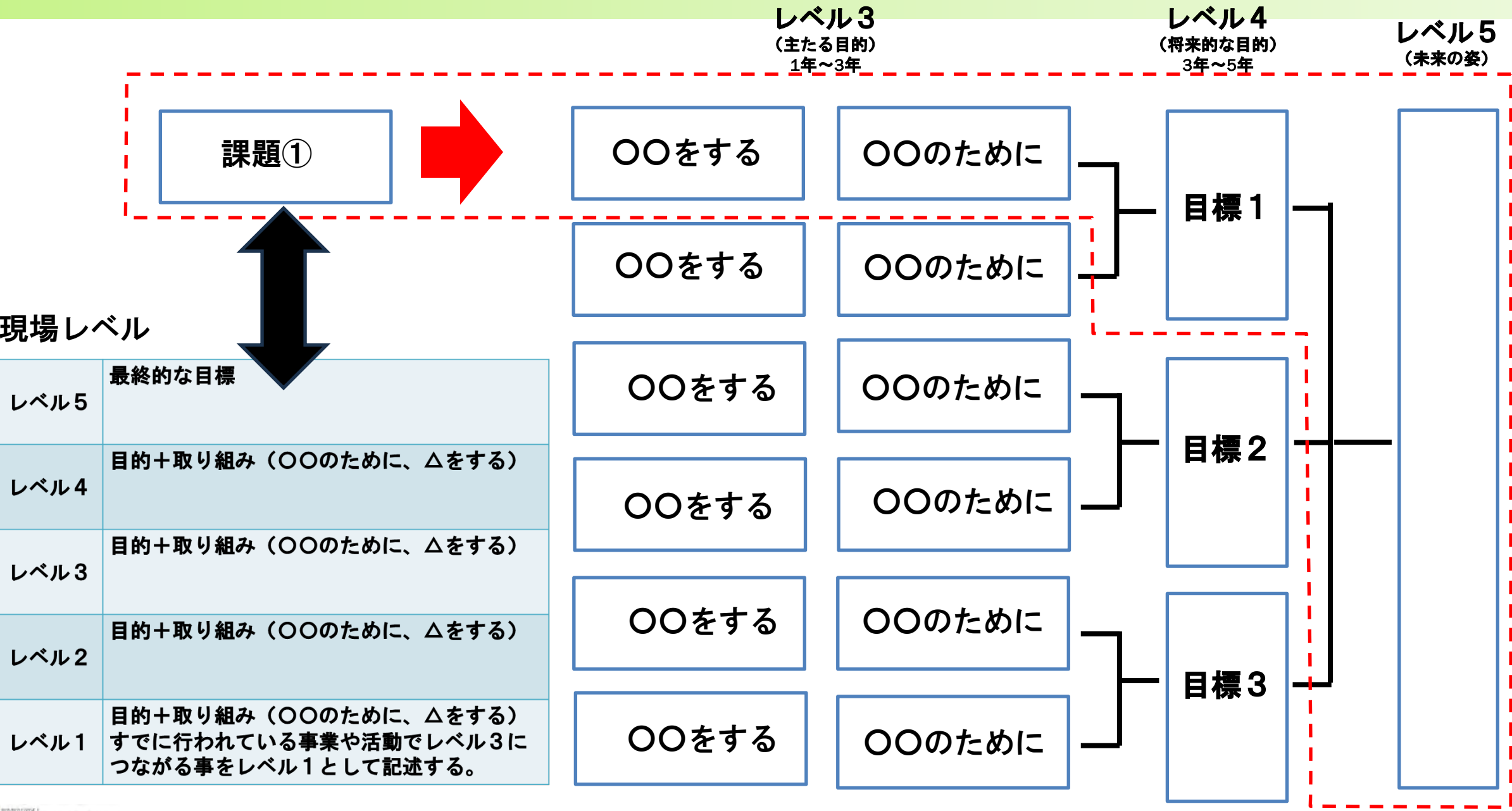
- **人や団体の資源**
- **住民の意識**
- **場所・施設・地域の環境**
- **状態(人の関係性や慣習・文化)**



強みを取組に組み込む

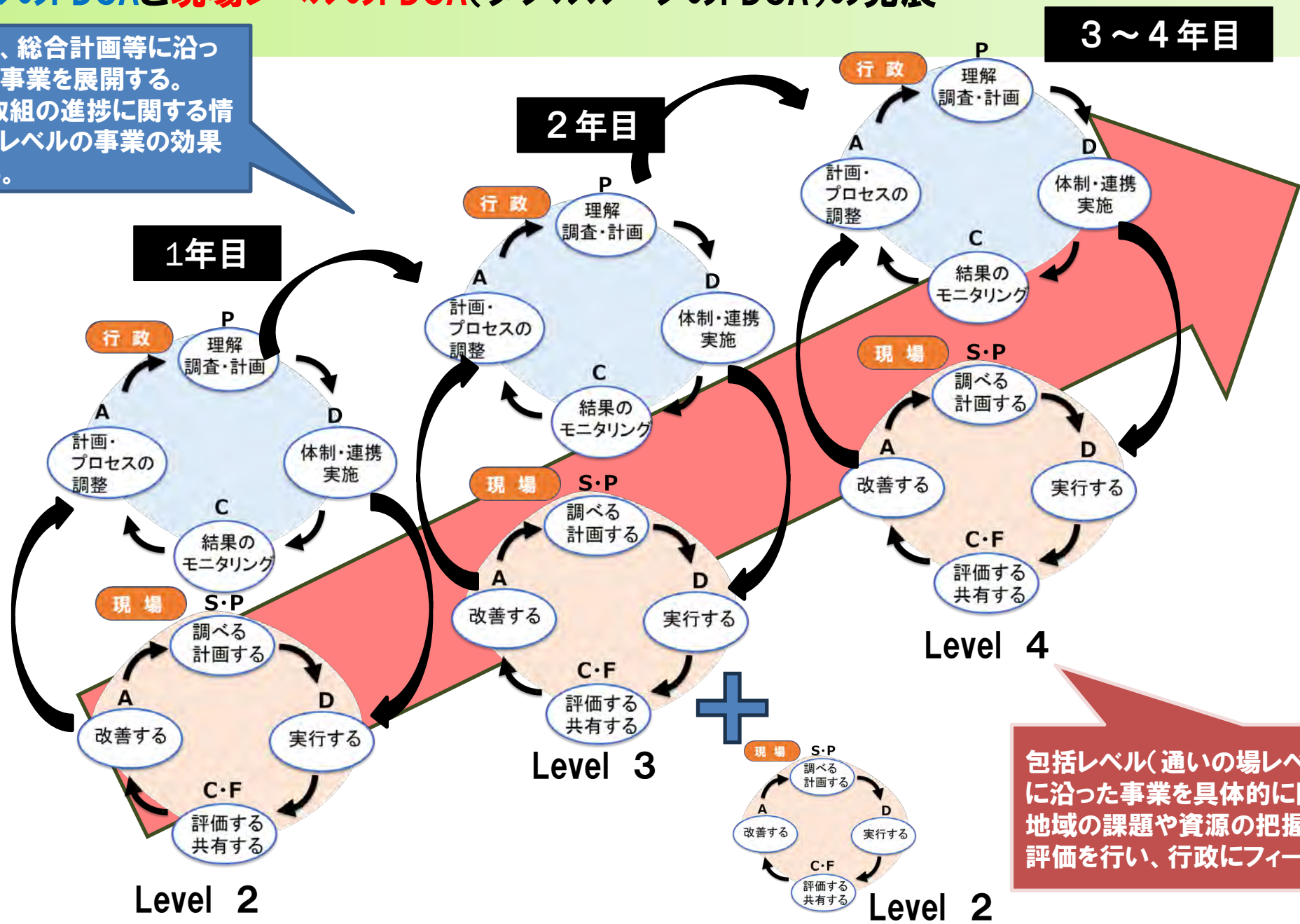
〇〇氏を講師とした取組
〇〇団体と連携した取組
〇〇な意識を活かした取組
〇〇な意識をさらに向上させる取組
〇〇施設を使った取組
〇〇を利用した取組
つながりの強さを活かした取組
あいさつ運動を活かした取組

施策のロジックモデル(体系図型)と目的の階層化の構造は同じ



行政レベルのPDCAと現場レベルのPDCA(ダブルループのPDCA)の発展

行政レベルでは、総合計画等に沿って、中長期的に事業を展開する。
個々の包括の取組の進捗に関する情報集約と、行政レベルの事業の効果評価を実施する。

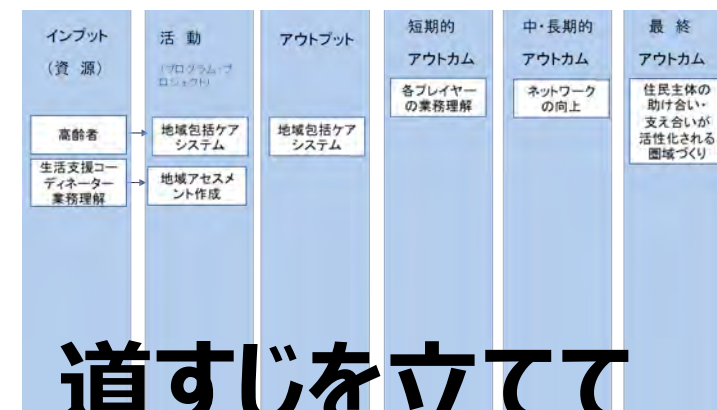


包括レベル(通いの場レベル)では、総合計画等に沿った事業を具体的に圏域で展開する。
地域の課題や資源の把握から通いの場レベルの評価を行い、行政にフィードバックする。

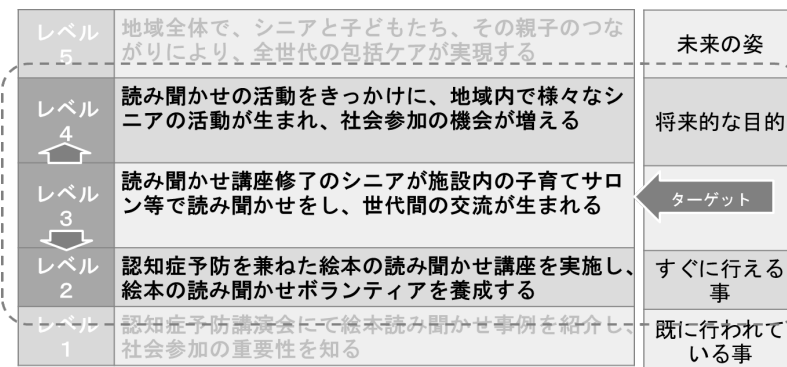
ロジックモデル

アセスメント・目的の階層化・ロジックモデルの関係性

ロジックモデル



道すじを立てて整理する



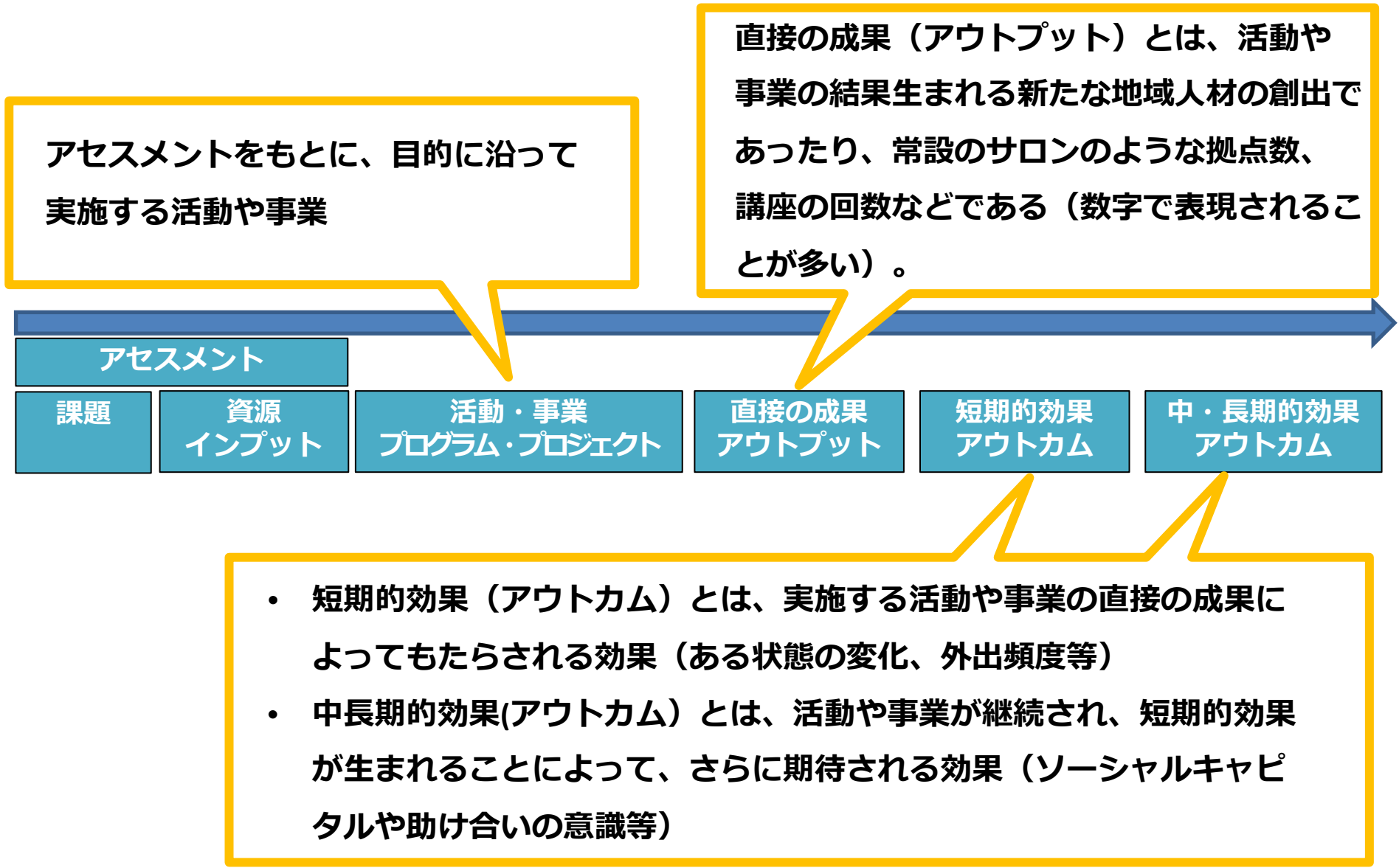
目的を階層化して共有する

データ		アセスメント			目指すべき展開
客観的データ	主観的印象	強み (活用/強化ポイント)	弱み (課題/改善ポイント)	補足 (強み/弱みの根拠等)	
住民特性 ・高齢者率28.5%。 (ケア24管轄地域全体では23.4%) ・数地の大きい一軒家が多い。 生活 ・利用可能な公共交通機関が少ない。 住民組織活動・社会参加活動 ・町会への加入率は比較的高い。 医療福祉サービス ・大きな病院は遠く、診療所が点在。 ・介護施設が少ない。	・数年前と比べると、一人暮らしの高齢者が増えている印象。 ・福祉で比較的年齢のある人が多い印象。 ・高齢者の移動手段は多くが自転車。その割に道幅が狭く、車通りが多いところが多い。 ・町会の活動も活発。 ・町会では、ケア24と積極的に連携してくれようとしている。 ・行動力のある、地域の核となり得る人が多い。 ・たすけあいネットワークへの登録が多い。	・住民の社会経済状況が高い。ケア24の活動の意義などを理解してもらいたい。 ・一軒家が多く訪問が難しい(入れてもらえない) ・一人暮らし高齢者の増加。 ・ケア24として従来高齢者の情報(台帳)整理が不十分ではないか。 ・高齢者の交通安全への意識は高まっているが、不明。 ・地域の住民組織活動が活発。これを通じた様々な事業展開や広報・周知活動も十分可能である。 ・共助の意識が高い。	・一軒家が多く訪問が難しい(入れてもらえない) ・一人暮らし高齢者の増加。 ・ケア24として従来高齢者の情報(台帳)整理が不十分ではないか。 ・高齢者の交通安全への意識は高まっているが、不明。 ・一人暮らし高齢者の見守り活動。町会と協働して行うことができるのではないか。 ・まずはその必要性について町会をはじめとする組織と話し合う機会を設けてみる。 ・活用可能な社会資源>警察、他のケア24	・一人暮らし高齢者の見守り活動。町会と協働して行うことができるのではないか。 ・まずはその必要性について町会をはじめとする組織と話し合う機会を設けてみる。 ・活用可能な社会資源>警察、他のケア24	目指すべき展開

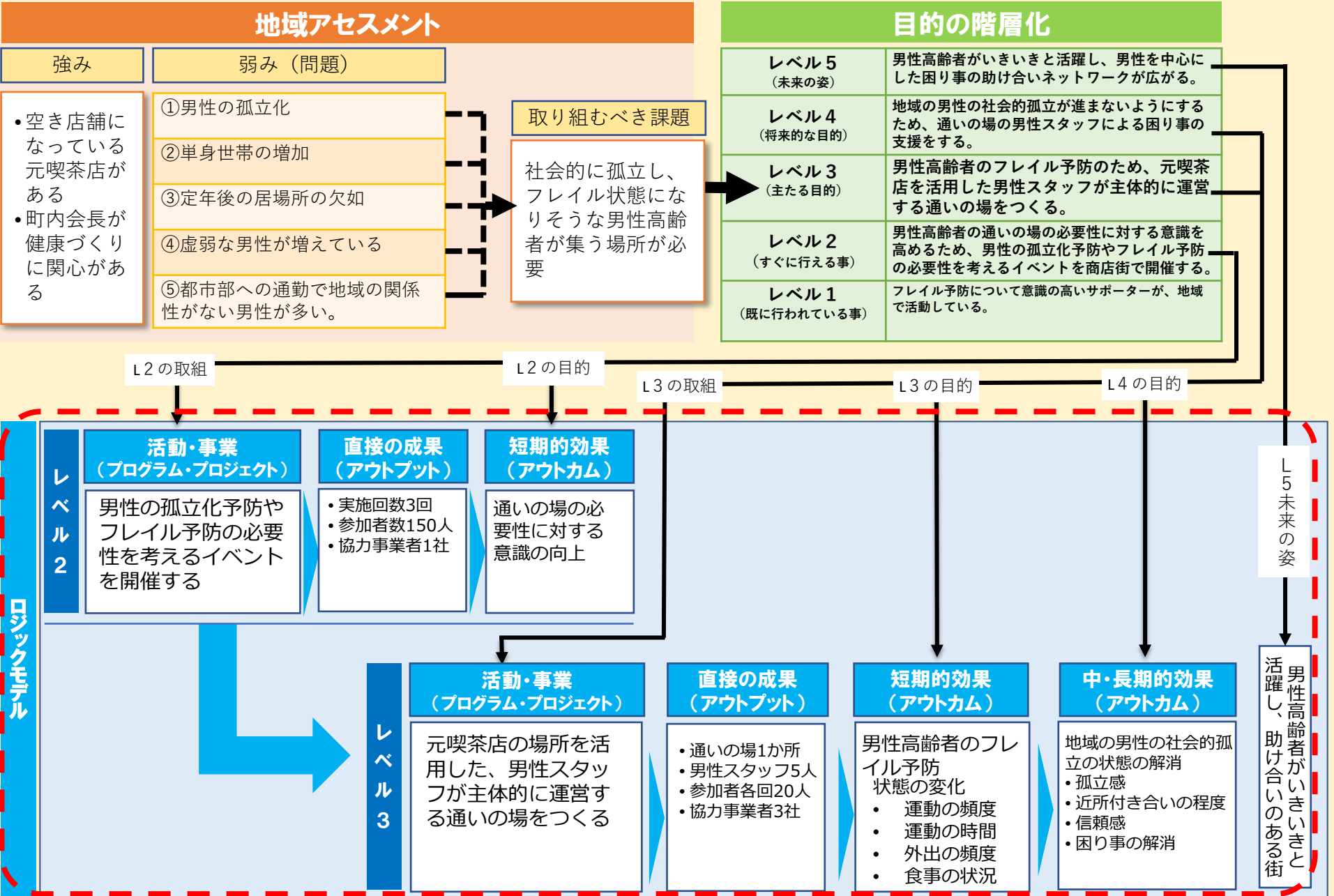
情報を収集・整理して可視化する

- アセスメントは、自治体や地域の課題、資源を明らかにするが、それらを効果的に活動や事業に活かしていく必要がある。 →管理機能
- 日々の活動が長期的に事業目標（地域の課題解決や、まちの将来ビジョン）の達成につながっているかを確認する必要がある。 →評価機能

ロジックモデルの基本構成



地域まるごと戦略シート



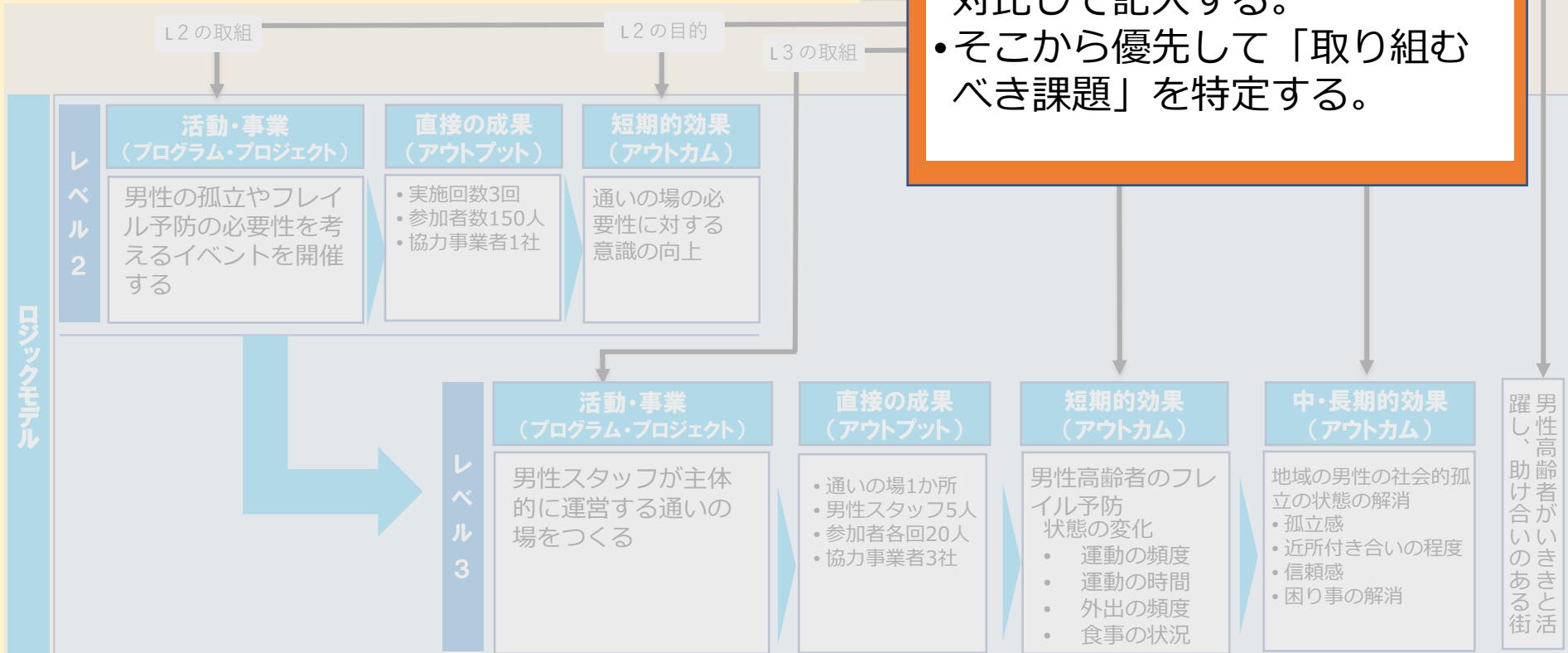
地域アセスメント

強み	弱み（問題）	取り組むべき課題
• 空き店舗になっている元喫茶店がある • 町内会長が健康づくりに関心がある	① 男性の孤立化 ② 単身世帯の増加 ③ 定年後の居場所の欠如 ④ 虚弱な男性が増えている ⑤	社会的に孤立し、フレイル状態になりそうな男性高齢者が集う場所が必要

地域アセスメント

優先して「取り組むべき課題」の絞り込み

- 地域アセスメントの結果から、地域の「強み」と「弱み」を対比して記入する。
- そこから優先して「取り組むべき課題」を特定する。



地域アセスメント

強み

- 空き店舗になっている元喫茶店がある
- 町内会長が健康づくりに関心がある

弱み（問題）

- ①男性の孤立化
- ②単身世帯の増加
- ③定年後の居場所の欠如
- ④虚弱な男性が増えている
- ⑤

取り組むべき課題

社会的に孤立し、フレイル状態になりそうな男性高齢者が集う場所が必要

目的の階層化

レベル5
(未来の姿)

男性高齢者がいきいきと活躍し、男性を中心にした困り事の助け合いネットワークが広がる。

レベル4
(将来的な目的)

地域の男性の社会的孤立が進まないようにするため、通いの場の男性スタッフによる困り事の支援をする。

レベル3
(主たる目的)

男性高齢者のフレイル予防のため、男性スタッフが主体的に運営する通いの場をつくる。

レベル2
(すぐに行える事)

男性高齢者の通いの場の必要性に対する意識を高めるため、男性の孤立やフレイル予防の必要性を考えるイベントを開催する。

レベル1
(既に行われている事)

フレイル予防について意識の高いサポーターが、地域で活動している。

L2の取組

L3の取組

L3の目的

L4の目的

目的の階層化

目指すべき地域に至るための目的と事業・活動の明確化

- 地域アセスメントで特定した課題を解決するために必要な事業・活動を「レベル3（主たる目的）」として設定する。
- その事業・活動を実現するためにはどんなことが必要で、将来的にはどのような目的を達成できるのかを上下のレベルに記入する。

レベル2

ロジックモデル

レベル3

時に運営する通いの場をつくる

- 男性スタッフ5人
- 参加者各回20人
- 協力事業者3社

フレイル状態の変化

- 運動の頻度
- 運動の時間
- 外出の頻度
- 食事の状況

- 孤立感
- 近所付き合いの程度
- 信頼感
- 困り事の解消

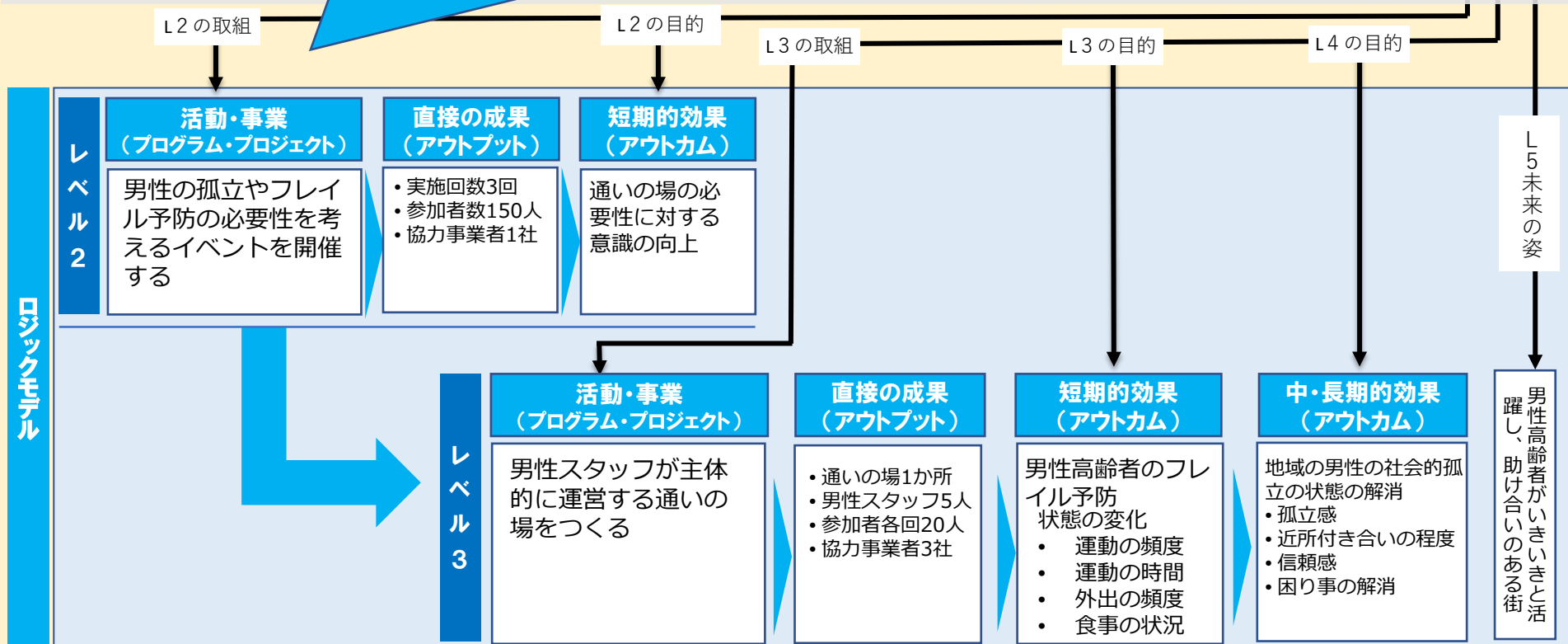
男性高齢者がいきいきと活躍する助け合いのある街

- 空き店
な
って
元喫茶
ある
- 町内会
健康づ
に関心
する

ロジックモデル

目的に応じた事業・活動による成果と評価の明確化

- 地域アセスメントと目的の階層化をもとに、地域に存在する資源、取り組むべき事業・活動の具体的な内容やその成果（アウトプット）、短期的および中・長期的効果（アウトカム）を連動させて、事業全体の道すじを示す。

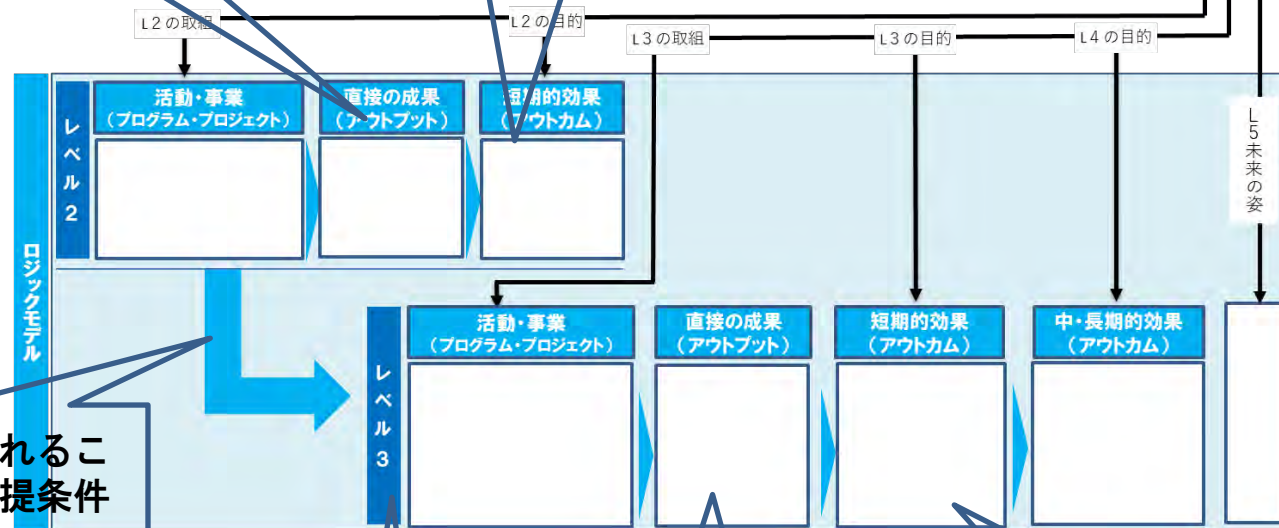


戦略シート上のロジックモデルの確認

アウトプットはレベル2の活動（取組）から生まれる内容になっていますか？

レベル2のアウトカムの達成は、レベル3の活動を実施するために必要なことになっていますか？

目的の階層化	
レベル5 (未来の姿)	
レベル4 (将来的な目的)	
レベル3 (主たる目的)	
レベル2 (すぐに行える事)	
レベル1 (既に行われている事)	



レベル2が達成されることがレベル3の前提条件になる関係性です。

階層化の取組のレベル3以外の内容が記述されていませんか？

アウトプットにアウトカムが入っていませんか？

目的に合わせたアウトカムになっていますか？
評価が可能なものになっていますか？